

特集 青汁

本 紙が7月中旬～8月初旬に掛けて青汁製品の主要サプライヤー、受託加工・製造事業者、販売メーカーなどを対象に実施した調査の結果、今年上期の青汁製品の市場は、前年同期比を上回るペースで推移、好調をキープしていることがわかった。長引く新型コロナ禍で国民の健康意識はますます高まる中、青汁製品の底堅さが垣間見られる。一方で、参入企業や販売製品数の増加を受けて、店販・通販ともパイの奪い合いが見られるなど、競争は激しさを増す。青汁製品市場では今後、素材・アプリケーション・目的・チャネルなど、きめ細かい販売戦略が求められることとなりそうだ。

今年上期、テレビCM・ネット広告等で売上伸長の企業も

本紙が今年2月に発表した2020年通期の青汁製品の市場規模は、3年ぶりに好転し1,071億円(小売ベース)となった。今回の調査では、その勢いが今年上期にも継続していることがわかった。もちろん、販売チャネルによる明暗は今年も顕著に見られた。在宅勤務が定着する中、健康食品の販売チャネルとして、ネット通販をはじめ、テレビ、カタログと通販全体が好調に推移する中、青汁製品も同様に通販ルートでの売れ行きは概ね良好だった。またドラッグストアでの売れ行きも昨年に引き続き堅調に推移した。

一方で、百貨店や薬局・薬店、化粧品販売店、エステサロンなどのカウンセリング販売ルート、訪販・宣講販売ルートなどの対面販売ルートは新型コロナ禍の影響で、引き続き厳しかった。ただ昨年後半からは、オンラインを活用した販売手法やセミナーなどに対応する企業も増えたことで、「売上は回復基調にある」とコメントする企業も見られた。

今年上期の特長としては、テレビCMなど露出を高めたメーカーの製品がチャネルを問わず好調に推移した点。山本漢方製薬では、俳優の原田龍二氏夫妻を起用したテレビCMの効果で、6月・7月の売上が急伸したという。伊藤園でも昨年のテ

レビCMに合わせて店頭での露出を強化したことが奏功、今年上期も好調をキープした。通販メーカーも同様で、テレビCMやネット広告等で積極的に露出した製品ほど売上に結び付いた傾向が見られた。

原料バリエーション拡大、エキス末2社も市場参戦

青汁専門または取扱量が多い受託加工・製品OEMメーカーへの取材では、今年上期の業況について「良かった」と回答した企業が多く、業況も前年同期比で横ばいから微増・増収との回答がほとんどだった。本紙が健康食品の受託メーカーに実施した調査でも、今年上期の人気受注素材で青汁は6位にランクイン。下期予想では4位となっており、下期も堅調を維持する見通しだ。

また、青汁素材として定番の大麦若葉に加え、桑やクマ笹、明日葉、モリンガ、ケールなどの加工依頼が増えているとの回答が目立った。近年の受注製品の傾向として、大麦若葉を軸に各種素材をブレンドする青汁ミックス系の製造依頼が多いという。ほかにも、昨年来ヒットの続く乳酸菌を配合した青汁製品、美肌成分のコラーゲンやヒアルロン酸を配合した

上期好調維持も！市場は「戦国時代」へ

主な青汁素材			
大麦若葉	ケール	桑葉	明日葉
			
クマ笹	ボタンボウフウ	沈香葉(シンコウヨク)	カワラケツメイ
			
ゴーヤー(ニガウリ)	甘藷若葉	モリンガ	オリーブ葉
			

製品、最近ではプロテインと組み合わせた大袋タイプ製品の開発案件も増えているとのこと。さらに、一般食品、化粧品、製薬メーカーをはじめ、フィットネスクラブ、エステサロン、ヨガ施設、温浴施設、外食チェーン、宅配、小売店——など、幅広い業種から青汁製品の受注が増加していることもうかがえた。

原料・OEM市場で今年上期の話題は、日本薬品開発およびヤクルトヘルスフーズの原料市場への参戦だ。両社は大麦若葉を搾汁したエキスを粉末化した青汁製品の2大メーカーで、乾燥粉末原料が主流の原料市場で、エキス末原料がどこまでシェアを獲得できるのかに注目される。

競争激化の青汁製品市場 求められる、きめ細かな販売戦略

青汁製品は今後も成長が期待される一方、競争も激しさを増している。製品OEMメーカーのコメントにあるように、幅広い業種が青汁製品の販売に参入していることはもちろん、ドラッグストアや量販店など店舗チャネルでは、主要メーカーのNB商品に加え、小売店によるPB商品化が進んでおり、パイの奪い合いが見られる。通販チャネルでも従来の青汁製品に強い販売企業だけでなく、数多くの販売企業が青汁製品をラインアップに加えて

おり、売上が分散する傾向が見られる。さらに、ここ数年は店舗系の有力メーカーが通販チャネルに相次いで参入しているほか、AmazonなどもPB商品を販売するなど、今後ますます厳しい競争が予想される。

国内市場での青汁製品の販売は今後、素材・アプリケーション・目的・チャネルなど、きめ細かい戦略が求められることとなりそうだ。アプリケーションでは、伊藤園が市場を牽引する青汁飲料に今春、新日配薬品が参入、今後も参入メーカーの増加が予想される。スティックゼリータイプも売上を伸ばしている。「機能性表示食品の青汁飲料も売れている」(伊藤園)といったコメントも聞かれる。

また、ケールやモリンガなどのスーパーフード系の青汁製品は、ヨガ施設やリラクゼーションサロンで人気が高い。ゴールドプレスジュースを提供するスタンド、オーガニック系のカフェやレストランなどでの取り扱いも増えている。昨年来、ケールを搾った冷凍青汁やゴールドプレスジュースの上市が相次いでおり、パッケージも洒落た物が多く、新しい購買層を獲得しつつあるようだ。最近では、豊富な栄養素が強みの「微細藻類」の青汁製品も登場、スーパーフード市場の様子を伺う。戦国時代に入っした青汁製品の今年下期の動向から目が離せない。

リグナン胡麻栽培の胡麻若葉、食薬区分改正で食品に“国産青汁原料”として拡販へ

わだまんサイエンス

株式会社わだまんサイエンス(京都市中京区)は、「国産のオリジナル青汁原料」として、「リグナンリッチ黒胡麻種子」から栽培された「国産胡麻若葉」の原料・OEM供給を行う。

今年5月の食薬区分改正により、正式に胡麻若葉(ゴマ地上部)が食区分となったことを機に、より一層拡販に注力していく。

同社が提案する国産胡麻若葉は、鹿児島産(無農薬・無化学肥料栽培)、島根県産(有機JAS認定品)で栽培したもの。

「(セサミン含量が高い)リグナンリッチ黒胡麻種子」から栽培することで、希少ポリフェノールのアクトエシドを高含有する点が最大の特長だ(特許NO.5476206)。

さらに、「ACE阻害活性、抗糖化性、抗酸化性などのエビデンス」「オリジナリティ」

「国産」「胡麻の健康イメージ」などの点がアドバンテージとなり、青汁を中心にサプリメント、外食・中食での採用実績を有している。「リグ菜」としての商標登録されていることも強みの1つ。

訴求する機能性は、日本大学との共同研究で解明した抗糖化作用、抗酸化作用(ORAC値47,000 $\mu\text{molTE}/100\text{g}$)、ACE阻害活性(ACE50%阻害率: 5.7mg/ml)。「近年、アルツハイマー、パーキンソン病への有効性など、胡麻若葉由来アクトエシド(フェニルエタノイド配糖体)などの新見解が報告されていることにも注目している」という。

同社は創業明治16年の胡麻司・和田萬商店のグループ企業。リグナンリッチ黒胡麻については微粉末からペースト、オイルまでオリジナル機能性胡麻原料をラインアップし、原料・OEM供給から自社商品の販売まで、「胡麻製品のトータルプロデュース」を推進する。

アイテム拡充にも積極的に取り組んでおり、リグナンオイルの搾油残渣を原料とした新素材「リグナンリッチ黒胡麻マイクロファイバー(F)」を開発。SDGs対応原料として、今秋からサンプルワークをスタートする計画だ。

セサミンを規格

香り芳醇

リグナンリッチ黒胡麻 マイクロパウダー 金胡麻マイクロパウダー

●60メッシュ90%パス、胡麻粉末飲料、ふりかけ、生菓子、製菓へ
「通常のすりごまより香りが広がる」セサミンリッチな黒胡麻です。
～プロテイン飲料、菓子、スープ、トッピング等へ～

New 2021年
9月より

リグナンリッチ黒胡麻 マイクロファイバー(F)

●リグナン胡麻搾油残渣の微粉末品です。食物繊維、胡麻由来のミネラル等の摂取に

～リグナンリッチ黒ごまで栽培された～

胡麻若葉末

●有機認定(島根産)

●九州産(鹿児島)

※特許査定を受けました

※急性毒性、変異原性試験、ORAC値測定

※黒酢との比較でACE活性阻害作用を確認

●リグナンリッチ黒胡麻ペースト
(セサミン規格値0.8%)

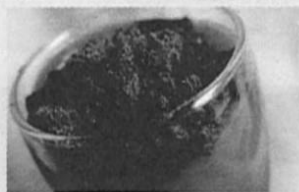
●リグナンリッチ黒胡麻油
(セサミン規格値1.2%)

New!

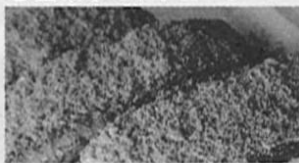
●発酵胡麻ほか ●黒五

●胡麻クランチのOEM

●ヘルシースナッキングや、生菓子にもリグナン黒胡麻、金胡麻マイクロパウダーを



●生菓子のトッピングへ



●きなこと一緒に



胡麻を通じて健康を科学する。
～香と機能、個性ある胡麻をお届けします～

株式会社 **わだまんサイエンス**

本社 〒604-0845 京都市中京区烏丸御池上る二条殿町546
TEL 075-222-7318 / FAX 075-222-0318
<http://www.wadaman-s.com>